



ラムサ
ホワイトブック
【改訂版】

RAMTHA

THE WHITE BOOK

松野 健一 訳

RAMTHA THE WHITE BOOK

Revised and Expanded Edition
Copyright© 1999, 2001, 2004 JZ Knight.
Japanese Language Edition Licensed and Published
by FutureNow Publishing, 2014

この本の内容は著作権法によって保護されています。JZK, Inc.の一部門であるJZK出版の書面による許可なしに、本書の一部または全部を、コピー機によるコピー、録音や録画、または何らかの情報記憶装置によるコピーを含めて、電子的または機械的に、いかなる形で複製または伝達することも禁じます。

この本は、英語書籍 Ramtha (Copyright© 1999 JZK, Inc.) の改訂増補版の翻訳です。原書の内容は、JZ・ナイトおよびJZK, Inc.の許諾のもとに米国著作権庁に登録されている一連の磁気録音である Ramtha Dialogues® に基づいています。

Ramtha® (ラムサ)、Ramtha Dialogues® (ラムサ・ダイアログ)、C&E®, Consciousness&Energy® (意識とエネルギー)、Fieldwork® (フィールドワーク)、The Tank® (タンク)、Blue Body® (ブルーボディ)、Twilight® (トワイライト)、Torsion Process® (トーション・プロセス)、Neighborhood Walk® (ネイバーフッドウォーク)、Create Your Day® (一日の創造)、The Grid® (グリッド)、Become a Remarkable Life® (驚くべき人生そのものになる)、Conquer Yourself® (自分自身を征服する)、Mind As Matter® (物質としてのマインド)、Anological Archery® (アナロジカル・アーチェリー)、Gladys® (グラデス) は、JZ・ナイトの登録商標であり、彼女の許諾のもとに使用されています。

翻訳についての注意

この本は、ラムサが与えた講義と教える磁気録音である Ramtha Dialogues® に基づいています。ラムサは、自分のメッセージを伝えるための唯一のチャネルとして、アメリカ人の女性である JZ・ナイトを選びました。教えるもたすために彼が使う唯一の言語は英語です。彼はとてもユニークで変わった話し方をしますが、その話し方はしばしば誤解され、「古めかしくて奇異だ」とみなされます。彼の教えに耳を傾ける聴衆は、文化的背景や職業の異なる様々な人々で構成されますが、彼によれば、彼の言葉の選択、造語、文の組み立て方、動詞や名詞の並べ方、文中での間の取り方などは全て意図的なもので、それぞれの人間が持つ様々なレベルの受容力や解釈方法に合わせるためだということです。

ラムサが与えたメッセージの純粋性を保つために、この本は、元のラムサの言葉の意味をできる限り忠実に伝えることを意図して翻訳されました。読者の方々に、あたかもラムサの講義に実際に参加しているような体験を提供するためです。そのため、一見、奇異で間違っているように見える文章もあるかもしれませんが、そのような文章に出会った場合、もう一度その箇所を読み直し、言葉の背後にある意味を把握することを試みてください。

これはどのような翻訳物についても言えることですが、ある作品がまったく別の言語に翻訳されるとき、やむを得ない理由により原文の意味やニュアンスを忠実に伝えきれない箇所が生じることがあります。それゆえ、より明確な理解を得るために、JZK 出版によって出版されている英語の原書を参照することも役立つでしょう。

ラムサやラムサの学校 (RSE) についての情報は
下記で得ることができます

ラムサの学校
Ramtha's School of Enlightenment

P.O. Box 1210, Yelm, WA 98597, USA

www.ramtha.com (英語)

<http://ramjapan.com> (日本語)

あなたの内に宿る神に

目次

JZ・ナイトによる序文	7
第1章 イントロダクション	19
第2章 私はラムサ	25
第3章 あなた方が私の民であったとき	53
第4章 神は在るのみ	65
第5章 神を見よ	89
第6章 死後の生	107
第7章 死か、アセンションか	137

第8章 創造と進化 151

第9章 人間——天使よりも進化した存在 177

第10章 自分という神を知る 189

第11章 愛という贈り物 195

第12章 ただ真実あるのみ 203

第13章 愛しなさい、そしてやりたいことをやりなさい 227

第14章 喜び——最高の在り方 253

第15章 忘れられた神性 269

第16章 輪廻転生 293

第17章 知ることの科学 311

第18章 閉ざされたマインド 329

第19章 マインドを開く 339

第20章 体験の価値 367

第21章 ある晴れた朝に 387

エピローグ——ラムサの教えが持つユニークな意義

397

訳者あとがき

ラムサ用語集

巻末図集

ラムサの学校について

参考資料

JZ・ナイトによる序文

つまり、ここに来てあなた方に教え、あなた方を驚くべき存在にすることだけが、彼の目的です。

JZ・ナイト

私の名はJZ・ナイト、この体の正当な所有者です。ラムサと私は二人の異なる人間、異なる存在です。私たちには、現実において共有点があり、それは通常、私の体です。一見、私たちは同じように見えますが、本当はまったく違って見えます。

子どもの頃からずっと、私は頭の中で声を聞き、すばらしいものを見てきましたが、私にとってそれは普通のことでした。幸いなことに、私の母親はとても靈感の強い人間だったので、母親は、私が見ているものが何であるかを頭ごなしに決めつけたりしませんでした。私は人生を通してすばらしい体験をしてきましたが、最も重要な体験は、私が神をとて深く愛してきたということです。私の中には、神の何たるかを理解していた部分がありました。後に、私は教会に行き、宗教の教義が持つ観点から神を理解しようとしてきましたが、それは非常に困難なことでした。宗教的な観点は、私がいかに感じていたこと、そして知っていたこととは相いれなかつたからです。

私が生まれた時からラムサは私の人生の一部でしたが、彼が誰なのか、彼が何なのか、私には

わかりませんでした。ただ、すばらしい力がつねに私とともにある、ということだけは気づいていました。私が人生の中で困難に直面したときには——大人になる過程で私は多大な苦痛を味わってきましたが——そのような時には、私にいつも話しかけていたこの存在とともに、私はつねに信じられないような体験をしました。私が彼と会話をするとき、私にとつて彼の声は、あなたの方の声と同じくらいはつきりと聞こえます。彼は、人生におけるたくさんの事柄を私が理解するのを手伝ってくれましたが、彼の助言は、誰かが与えてくれる普通の助言のレベルを超えたものでした。

一九七七年になつてはじめて、彼が私の家のキッチンに現れました。それは日曜の午後のことで、そのとき私は夫と一緒に紙でピラミッドを作っていました。その頃、私たちはハイキングやバックパッキングに夢中になつていたので、食品乾燥機で乾燥食品を作っていました。私はそのとき、ああいった馬鹿げた代物のひとつを頭の上につけていたわけですが、キッチンの向こう側に、このすばらしい存在がいきなり現れたのです。この存在の身長は二メートルを優に超えており、光り輝く美しい姿でじつと立っていました。午後二時半に自分のキッチンにこのような存在が現れるなんて、思いもしないことです。このような出来事に対して心の準備ができていない間などいけません。ともかくこのようにして、ラムサは私の前にはじめて姿を現しました。

私が最初に彼に言ったのは、「あなたは本当に美しいわね。あなたは誰なの？」という言葉ですが、この言葉がどこから出てきたのか私にはわかりません。彼の笑顔は太陽のようで、彼は本当にハンサムですが、彼はこう言いました。「私の名は覚醒した存在ラムサだ。あなた方が溝を乗り

越えるのを手伝うためにやって来た」と。私は単純な人間だったので、私の最初の反応は、床を見つめることでした。というのも、床に何かが起こったか、あるいは爆弾でも落とされたのかもしれないと思つたからです。私には何が起こっているのかわかりませんでした。その日以来、彼は私の人生の中にずっと現れ続けることになりました。そして一九七七年の年には、控えめに言つても、たくさんの面白い出来事が起こりました。その頃、私の二人の子どもラムサと会い、いくつかの信じられないような体験をしました。私の夫も同じです。

その後、彼は私に彼の正体を理解させようとしてきましたが、私がうまく理解できなかったのも、ある日こう言いました。「あなたに一連の本をもたらすランナーを送ろう。それらの本を読めば、私の正体がわかるだろう」それらの本とは、「極東のマスター達の生活と教え」^{（*注）}のことでした。私はこれらの本を読み、「ラムサという存在は、ある意味でこれらのマスターのひとりなのだ」ということを理解し始めました。それによつて私は、その頃自分を悩ませていた思い、つまり「彼は悪魔なのか、それとも神なのか」といった思いから抜け出すことができました。

私が彼の正体を理解してからは、彼は私の家のリビング・ルームに長身の美しい姿で現れては、ソファでくつろぎながら私に話しかけ、とても長い時間をかけて私にいろいろなことを教えました。その当時の私が気づいていなかったのは、私が彼に何をたずねるか、そして彼がそれらにどう答えるか、といったことを、彼がすべてあらかじめ知っていたことです。当時の私はそのことを知りませんでした。

一九七七年以来、彼は辛抱強く私に関わっているわけですが、彼のやり方は、私に彼の信憑性^{（しんぴやうせい）}を

*注：「極東のマスター達の生活と教え」——「The Life and Teaching of the Masters of the Far East」（全6巻、DeVorss Publications）のこと。邦訳は「ヒマラヤ聖者の生活探求」（霞ヶ関書房）、「実践版ヒマラヤ聖者への道」（異なる訳者による新訳、ヒカルランド）として出版されている。

たずねさせるといふものではなく、神としての私自身についてたずねさせるといふものでした。私がドグマにとらわれているときや、制限にとらわれているときには、彼はちよどいいタイミングで私をそこから引き出し、ひとつずつ順々に私に教えていきました。私はよくこう言つたものです。「あなたは本当に辛抱強いわね。あなたがこんなにも辛抱強くてよかつたわ」と、彼はただ笑つて、こう言いました。「私は三万五千歳だ。三万五千年の間、辛抱すること以外、ほかにやることがあるだろうか？」と。私の質問の内容を彼はあらかじめ知つており、だからこそ、彼はこんなにも辛抱強いのだ、ということに気づいたのは十年ほど前のことです。しかし、彼は本当に偉大な教師なので、私がこれらの問題に自分で取り組む機会を与えました。彼は眞の教師として、差し出がましい話し方ではなく、私が自分の力で気づくことができるような話し方で、私に話しかける思慮深さを持つていました。

ラムサのチャネリングは一九七九年から始まりましたが、これはすごい体験です。彼は身長が二メートル以上もあり、いつも二枚のローブを身に付けています。いつも同じローブですが、それらは本当に美しく、見飽きることはありません。内側のローブは眞つ白で、それは彼の体を足があると思われる場所まで覆つています。彼はその上に、美しい紫色のローブをまといつています。このことを理解してほしいのですが、これらのローブは本当に物質でできているように見えますが、実際には、それらは物質でできたものではありません。それは光のようなものです。それは透き通つて見えますが、彼が身に付けているものは、実在しているように見えます。

ラムサの顔は「シナモン色」ですが、この表現が最適でしょう。それは茶色でもなく、白でも

ありません。赤でもありません。これらの色を混ぜたような色をしています。彼の目は真つ黒で、その目は人の内面までのぞき込むことができ、彼に見つめられている人間はそのことに気づくでしょう。彼の眉毛は鳥の翼のようで、それが目の上ではばたいています。彼はとても角張つたあごと美しい口を持っています。彼が笑うと、あなたはまるで天国にいるように感じるでしょう。彼はとても大きな手と長い指を持っていますが、それらを使って自分の思考をととても雄弁に説明します。

それから、彼は私に体から抜け出すことを教えました。例えば、私の体験はこのようなものでした。彼が私を体の外に実際に「引つ張り出し」、私を光のトンネルの中に投げ入れ、私は光の壁にぶつかって跳ね返され、それから私がこの世界に戻ってくると、自分の子どもがもう学校から帰っていて、自分がまだ朝食の後片付けしか済ませていないことに気づくわけです。この世界での「失われた時間」に慣れるのは本当に大変でした。自分が何をやっているのか、自分がどこに行っているのか、私には理解できませんでしたが、私たちはたくさんの練習を重ねました。このことを理解してほしいのですが、彼が私を体から引つ張り出した時刻が午前十時だとして、私がこの白い壁から戻ってくると午後四時半になっています。私はこの失われた時間に慣れようとして、本当に苦労しました。こうして、長い時間をかけて、ラムサが私に体外離脱の方法を教えました。それは楽しくてわくわくするものでしたが、時には、非常に恐ろしいものでした。ちよつと想像してみてください。彼があなたのほうに歩いてきて、あなたを体から引つ張り出し、あなたを天井まで放り投げ、「眺めはいかがかな？」と言います。それから、あなたは光の

トンネルの中に投げ込まれますが、このトンネルは、「別のレベルに通じるブラックホール」という表現が最適でしょう。あなたはこのトンネルの中に放り込まれ、白い光の壁にぶつかり、記憶喪失に陥るわけです。

彼が私に準備させていたことは、今回の転生の前に私がすでに同意していたことです。つまり、この人生での私の運命は、単に結婚して子どもを生み、「よい人生」を送ることではなく、逆境を克服し、あらかじめ計画されていたことを起こすことでした。そしてこの計画には、ラムサというとてもない意識と関わることも含まれていました。

ラムサが私の体を使うために私は着飾ろうとしましたが、これは滑稽なことでした。どうすればいいのか、私にはわからなかつたのです。はじめてラムサをチャネリングしたとき、私はハイヒールとスカートを身に着けていました。私は自分が教会にでも行くのだと思っていたのです。少し時間をさいて調べてみれば、彼がどんな姿で現れていたのかわかるでしょう。もちろん、彼は自分の人生でハイヒールやスカートなど履いたことはありません。

私はラムサではなく、私たちは二人の異なる存在であるということを人々に理解させるのは本当に難しいことです。あなたがこの体の中にいる「私」に話しかけると、あなたは「私」に話しかけているのであつて、彼ではありません。この十年くらいの間は何度か、マスメディアの世界において、私にとつて大きなチャレンジがありました。というのも、ひとりの人間が神のマインド^(*注)を授けられながら、そのマインドはその人間のものではない、といった現象があり得るといふことを、人々は理解できないからです。

*注：神のマインド——7つのレベルの意識の流れ全体を包含する巨大な情報貯蔵庫のこと。人間の脳は、この情報貯蔵庫の中の全ての情報にアクセスすることができる。巻末の用語集を参照。

あなた方に知っておいてもらいたかったのは、ラムサが私の体を使ってここに現れるのをあなた方が見たとしても、それは私の体であつて、本来の彼はまったく違った姿をしているということです。彼がこの体を使って現れたとしても、本来の彼が持つ偉大さは損なわれるわけではありません。このことも知ってもらいたいのですが、あなたと私が会話をし、ラムサが言ったことについてあなたが私に質問し始めたとしても、私にはあなたの話がまったく理解できないかもしれません。というのも、私が体から離れるとき、私はまったく異なる時間、まったく別の場所に行くからです。私にはその間の記憶がありません。彼がどんなに長く私の体を使ったとしても、私にとつては、ほんの五分か三分くらいにしか感じません。そして、私が体に戻つてくると、既に一日が終わつており、私にとつてはチャネリング中の時間がすつぽりと抜け落ちていくわけです。彼が言ったことを私は聞いておらず、彼がここで何をやったのか私にはわかりません。私が戻つてくると、私の体は疲れ果てています。その日にやるべき事柄のために、あるいはその日にやり残した事柄のために、階段を登つて着替えにいくのさえ困難なときもあります。

彼は私にすばらしいものをたくさん見せてくれましたが、それらは、実際にそれらを見たことがない人々には想像もできないようなものです。私は二十三番目の宇宙を見ました。驚くべき存在たちにも会いました。人々がこの天界にやつて来るところや、ここから去つて行くところも見ました。さまざまな世代が生まれては繁栄し、すぐに去つて行くところも見ました。彼は私に歴史的な出来事も見せましたが、それらは、私を知る必要があつたことの本質をより深く理解するのに役立ちました。別の転生における自分自身の隣を歩き、自分がかつてどんな人間だったかを

観察することも許されました。さらに、死の向こう側にあるものを見ることも許されました。これらの体験は、私にとって大切なものであり、私に特別に与えられた機会ですが、人生のどこかで、私はこれらのことを体験する権利を自ら獲得したわけです。これらの体験を他人に話しても、それはある意味で、かなり色あせたものになってしまいます。これらの場所に行ったことがない人間に実際の姿を伝えるのは難しいからです。私は語り手として最大限の努力はしていますが、それでも私の言葉では不十分です。

さらに、私にはわかるのですが、ラムサが自分の生徒たちとあのような関わり方をするのは、自分の存在によってあなた方を覆い隠したくないからです。つまり、ここに来てあなた方に教え、あなた方を驚くべき存在にすることだけが、彼の目的だということです。彼自身はすでに驚くべき存在です。また、奇跡的な現象を見せるのが彼の目的ではありません。「あなたにランナーを送ろう」と彼があなたに言ったならば、あなたは必ずそれを受け取るようになりますが、彼がそうするのは、彼があなたの前で巧みな技を披露するためではありません。彼はそういつたことはしません。そのような技は、グルとして崇拜されることを必要としているアヴァター（*注）の道具ですが、彼は崇拜されることを必要としていません。

したがって、彼はあなた方に教え、あなた方を啓発し、あなた方自身が奇跡を起こせるようになりますが、あなた方は実際に奇跡を起こせるようになるでしょう。そしていつか、あなたは思い通りに現実化したり、自分の体を離れたりすることができるようになり、普通の人間にとつては不可能な状況で愛することができるようになります。そのとき、彼はあなたの前に姿を現すでしょ

*注：アヴァター——自在に現実化する力を持っているが、これからマスターとして完全に覚醒し、死を克服しなければならない存在のこと。

う。あなたは彼の本来の姿を知る準備ができたからです。彼の本来の姿とは、あなたがこれからなるものにすぎません。そのときまで、彼はすべてを知っている存在として忍耐強く教え続けることでしょう。彼のようになることを学ぶ上で、私たちが知る必要のあるすべてを理解している存在として。

ひとつはつきりと言えることがあります。あなたが彼の話に興味を持ち、彼の姿が見えないにもかかわらず彼のことを愛し始めていくとすれば、それはよい徴候です。なぜなら、あなたの内面で重要なことは、この人生の中で、魂の促しに従って隠された自分を表に出すことだからです。それは、あなたのニューロネット(注1)に反するかもしれません。あなたのパーソナリティーはあなたに対して異論を唱え、あなたと議論するかもしれません。しかし、魂があなたをある体験へと駆り立てるとき、そのような論理などまったく無意味なものです。

あなたがグレートワーク(注2)に取り組みたいのであれば、あなたは忍耐力とフォーカス能力(注3)を養う必要があります、訓練(注4)を行う必要があります。はじめの頃は、訓練はとてつらいものです。しかし、あなたがそれを粘り強く続けることができれば、ある日、この教師があな

*注1：ニューロネット——脳神経細胞（ニューロン）が構成するネットワークのことで、これが特定のプログラムを生み出している。われわれが「自分」だと思込んでいるわれわれのパーソナリティー（人格）は、大脳の中にある小さなニューロネットにその基盤があり、この小さなニューロネットが、われわれが毎日従っている予測可能な固定されたプログラムを生み出している。

*注2：グレートワーク——本当の意味での偉大な仕事、永遠という観点から見て偉大な仕事を指す。巻末の用語集を参照。

*注3：フォーカス能力——「フォーカスする」とは、何かに「集中する」、「焦点を合わせる」といった意味である。ラムサの用語の中では、フォーカスとは、ひとつの思考を象徴するシンボルや絵や言葉を、脳の前頭葉に、意識的かつアナログ的に保持することである。ひとつの思考にフォーカスし続ける能力は、グレートワークの訓練において極めて重要であり、この能力は一朝一夕に養われるわけではない。

*注4：訓練——ラムサの学校であるRSEでは、知識とセットで様々な訓練方法が教えられている。訓練は、ラムサの教えを実際に体験するために必要不可欠なものである。巻末の用語集「グレートワークの訓練」を参照。

たのことを完全に覚えてしまおうでしょう。ある日あなたは、神話や伝説の中で聞いたマスター達がやるような驚くべきことができるようになっていくでしょう。あなたはそういつたことができるようになります。それが「旅」だからです。そして詰まるどころ、そういつた能力はまさに、人間という形態の中で目覚めつつあるひとりの神の現実を反映しています。

さて、以上がこれまでの私の旅ですが、私はこの人生ですつとこのような旅をしてきました。もしこれが重要なことではなく、本当のことでもなければ、少数の人々にニューエイジの体験^{＊注}をしてもらうために、私は一年のほとんどを忘却の中で生きるようなことは絶対にやらなかったでしょう。実際にはこれは、ニューエイジの体験よりも遙かに偉大なものです。さらに、瞑想する能力やヨガの能力よりも遙かに重要なものです。グレートワークの目的は、自分がなれる全てのものになれるように、人生を通してあらゆる点において意識を変え続け、自分のマインドを開いてマインドを制限から解放できるようになることです。

もうひとつ知っておいてほしいことがあります。これは私自身が学んだことですが、私たちは、自分が実際にできることだけを人に見せることができます。ここであなたは、「自分がそれを行うのを阻んでいるものは何なのか？」と言うかもしれないが、私たちにそれができないのは、ゆだねることができなかったり、それが起こるのをただ許すことができなかつたり、自分が持つ疑いのニューロネットと直面したときに自分自身を支えることができなかつたりするからです。疑いと直面しながらも自分自身を支え続けることができれば、あなたは突破口を開くことができます。というのも、疑いだけが、あなたを阻んでいるものだからです。あなたはある日、どんなこ

*注：ニューエイジの体験——チャネルされたラムサの話の聞くという、一見、ニューエイジ的な体験のことを冗談半分でこのように表現している。実際には、ラムサの一連の教えは、巷に溢れるニューエイジや精神世界の情報とはまったく異なる。

とでもできるようになるでしょう。そして、私がこれまでに見たもの、見ることを許されたものを、すべて自分の目で見ることになりました。

私がおここに登場したのは、私という人間が存在しているということ、そして私は自分がやっていることを愛しているということ、あなた方に伝えたかったからです。あなた方が今現在この教師から何かを学んでいるならば、私は嬉しいです。それよりも重要なことは、あなた方が今後も学び続けることですが、私はそれを望んでいます。

—— JZ・ナイト

第1章 イントロダクション

自らの神性に気づくこと以外、人類に救いの道はない。あなた方はこの理解の種である。あなたが考えること、気づくことは何であれ、あらゆる場所に存在する意識を向上させ、拡大する。自分自身の意図的な人生のために、自分が理解したことを実践しながら生きるとき、他の人々はあなたの中に、どこにでもいるありふれた人々よりも偉大な思考プロセス、崇高な理解、そしてより意図的な在り方を見いだすことができるのだ

ラムサ

私はラムサ、ひとりの至高の存在である。私は遠い昔に「地球」、あるいは「テラ」と呼ばれるこの天界に生きていた。その人生で、私が死ぬことはなかった。私はアSENDしたのだ。それは私が、自分のマインドの力を使って体を見えない生命の次元へ持つていくことを学んだからだ。そのことを学ぶ中で、私は無限の自由、無限の喜び、無限の生命があることを知った。私のあとにここで生きた者の中にも、私と同じようにアSENDした者たちがいる。

私は今、人類を深く愛している見えない同胞団の一員である。われわれはあなた方の兄弟であり、あなた方のあらゆる祈りや瞑想を聞き、すべての動きを見守っている。われわれは人間としてかつてここに生き、あなた方の誰もが知っている絶望や悲しみや喜びを体験した者である。だが、われわれは人間体験における限界を克服し、それらを超越することを学んだため、それより

も遙かに偉大な存り方を悟ったのだ。

私がここにやって来たのは、われわれにとつてあなた方が、とても重要で、貴重であることを伝えるためである。なぜなら、あなた方の中を流れる生命、そしてあなた方一人ひとりにやってくる思考は（あなた方がそれをどのように抱く^{いだ}としても）、あなた方が「神」と呼んできた知性と生命力そのものであるからだ。この神という本質こそが、われわれすべてを結びつけているものであり、それはわれわれを、この天界にいる人々だけでなく、あなた方がまだ見ることができない無数の宇宙にいる存在たちと結びつけているものである。

私がここにいるのは、あなた方のほとんどが遠い遠い昔に忘れてしまった血統を思い出し、もうためである。私がやって来たのは、今よりもずっと高い視点をあなたに与え、あなたはまさに神であり、不死の存在であり、神と呼ばれる本質が、つねにあなたを愛し、守ってきたことを、あなたが論理的に納得できるようにするためだ。また、深い知性を使って人生のあらゆる現実を創造してきたのはまさに自分なのだ、ということをおあなたが悟るのを手助けするためだ。そして、その同じ力を使って、自分の望むいかなる現実でも創造し、体験することができるとをわかってもらうためである。

あなた方の歴史全体を通して、私以外にもたくさんの方があなた方のところに来て来て、あなた方に自分の偉大さや力、生命の永遠性のことを思い出させるために、さまざまな方法を試みてきた。われわれは王、支配者、奴隸、英雄、十字架にかけられたキリスト、教師、ガイド、友人、哲学者……つまり「知識」をもたらすことが可能であるならば、どんなものにもなつて

きた。また、あなた方が自らを絶滅させるのを防ぐために、われわれはあなた方の出来事にしばしば介入してきた。ここでの生が、あなた方の体験のための遊び場、つまりあなた方が喜びの中へと進化するための遊び場を提供し続けられるようにするためである。だが、あなた方は、自分たちを助けるために手を差し伸べた者たちをひとりずつ迫害していった。あなた方が迫害しなかった者については、あなた方は彼らを拜むための像を建て、彼らの言葉をねじ曲げては、それを自分勝手に利用してきた。あなた方の多くは、彼らの教えを実践するのではなく、結局は、教師を崇拜するだけで終わってしまったのである。

自分が崇拜されることを避けるために、私は自分自身の化身けしん^{※注}では現れていない。そのかわりに私は、自分がこの天界に生きていたときに自分の愛しい娘であった存在を通して、あなた方に語りかけることにした。ありがたくも自分の体を使わせてくれていた娘は、私という存在の本質を伝えるための「純粹なチャネル」と呼ばれるものである。私があなた方に語りかけるとき、娘は自分の体の中にはいない。彼女の魂とスピリットは、体から完全に離れてしまっているからだ。私は変化の風をたずさえてあなた方の天界にやって来た。私と私のそばにいる者たちは、すでに動き始めている、ある壮大な出来事のために、人類に準備をさせている。人類が自分自身を開き、知識と愛があふれ出ることが可能になるような、偉大で光輝くものを人類に見せることによつて、われわれはこの天界のすべての人々をひとつにしようとしている。

なぜこんなことが行われているのか？ それは、これまでにあなた方が考えてきたどんな愛よりも偉大な愛によつて、あなた方が愛されているからだ。そして、人間を暗黒時代に追いやり、

*注：化身——肉体のこと。この肉体が、神が身に着けている衣服であるとする、この表現は適切である。

人間から自由を奪い、人々を分断し、恋人たちの間に憎悪を生み、民族の間に戦いをもたらしてきたような考え方よりも、遙かに偉大な理解を實踐して生きるべきが来ているからである。そのようなものはもう終わらせるときが来ている。人間が自分の神性と、自分が不死であることに気づくべきときが来ており、この天界での生存のために這い回るようなことは、もうやめるときが来ているのである。

あなた方の愛すべき兄弟である、すばらしい存在たちによつて、偉大なる知識がこの天界にもたらされる日がすぐそこまで来ている。そのとき、科学はこれまでよりも遙かに発展し、花開くことだろう。これからやつて来るのは「神の時代」と呼ばれるものだ。それは計画的で慎重な変化を通して、ふさわしい時期を見はからつてもたらされる。これからやつてくるこの時代には、病氣や苦しみ、憎しみや戦争といったものは、もはやこの天界に存在しなくなる。体が老いることも、死ぬこともなくなり、ずっと続く生だけが存在するようになる。知識と理解、そして深い愛を通して、これらのことが一人ひとりの人生において現実のものとなるのである。

自らの神性に気づくこと以外、人類に救いの道はない。あなた方はこの理解の種である。一人ひとりが自分の価値と重要性に気づき、自分の生が永遠であることに気づくにつれて、あなた方は、無限の思考、無限の自由、そして無限の愛といった意識に、ひとつずつ新たなものを加えていく。あなたが考えること、気づくことは何であれ、あらゆる場所に存在する意識を向上させ、拡大するのだ。そして、自分自身の意図的な人生のために、自分が理解したことを実践しながら生きる時、他の人々はあなたの中に、どこにでもいるありふれた人々よりも偉大な思考プロセ

ス、崇高な理解、そしてより意図的な在り方を見いだすことができるのである。

今という時代は、有史以来、最も偉大な時代である。困難で苦勞の多い時代ではあるが、この時代がもたらしてくれるものを体験するために、あなた方は今ここに生きることを選んだのである。本当に長い間、あなた方全員が、人生の中で神に会えると、繰り返し約束されてきた。しかし、たくさんの人生を経ても、あなた方は自分が神を見ることをけっして許さなかったのである。この人生では、あなた方のほとんどが実際に神を見るだろう。あなた方はこの場所に壮麗な王国が出現するのを見ることになる。そして、諸々の文明があなた方の前に姿を現すが、それらはあなた方がその存在をまつたく知らなかった文明である。そして新しい風が吹く。そして、愛と平安、そして存在することの喜びが、あなた方の宇宙のエメラルドであり、神の家であるこの神聖な場所を美しく飾ってくれるのである。

ここで語られていることについて熟考し、これらの言葉があなたの存在の中へと入っていくのを許すのだ。そうしたとき、あなたは思考をひとつ抱くごとに、ファイリングをひとつ感じるごとに、そして一瞬一瞬生きるごとに、自分の偉大さ、自分の力、自分の輝きを理解している状態へと戻っていくのだ。